

H.28  
(2016年)

## 七月（今月の掲示板）

真宗大谷派・願成寺

『損か得か』世間の物差し、『嘘か真か』仮の物差し

人間とは、梵語（インドの古語）で、『マヌシュヤ（考えるもの）』と言い、「あの子は分別（世間の物差し）があつて賢い」と、物事の善惡・道理が分かるの意味で『分別』を使います。「分』は分ける・『別』は区別で、分別では『健康は善、老・病・死は悪』です。お金があり・元氣で長生きなら幸せ、何時かは幸福になれると思い続けて人生が終わつてしまふことに気づかないのを『無明』=智慧がない』と言います。

自分の分別で生き続けると、『老・病・死の不安に愚痴を言う』ことになるのです。南無は『お任せします』で、南無阿弥陀仏は『阿弥陀仏に御任せします』の意味です。病気・貧乏・怠け癖なども、無数の縁（条件）の積み重なりの結果です。全てを仏様が決められるのダと『明らか（諦）める』のです。そして『南無そのまんま』と、全てを仏様に御任せし、幸福な病人・幸福な貧乏人などになればいいのです。

主な参考資料

(1) 田畠正久『講演筆録』念仏はなぜ難信なのか、月刊・在家仏教 2012年11月号、p.52~86(在家仏教協会)。

(2) ひろさちや（著）のんびり生きて気楽に死のう、PHP研究所、p.120~129(2009年)。

(3) 大江憲成（著）暮らしの中の仏教「分別」、月刊・同朋 2012年10月号、p.25(東本願寺出版部)。